

### Ⅲ 中学部の実践

#### 1. 研究の概要

##### (1) 中学部の教育について

本校中学部は各学年1学級で計16名（1年生6名 2年生5名 3年生5名）である。教師は学級担任が2名ずつと部主事 級外の計8名である。子どもの数が16名で人数的に多くないこと 学部全体や縦割りで行う授業が多いことなどから担任以外の教師も子どもの実態をかなり把握している。学級担任がそれぞれの子どもを指導していくと共に 16名の子どもを8名の教師全員で指導するという考えが根づいている。

本校中学部における教育目標は以下の通りである。

- ・ 健康 安全についての関心を高め 身体機能および体力の向上につとめる。
- ・ 日常生活や学習活動の充実を図り 生活経験に広がりを持たせる。
- ・ 集団生活のきまりや役割を理解させ 自主性 協調性を養う。

この教育目標に基づき時間割や年間行事が組み立てられているわけであるが その際何を大切にしているかを表Ⅲ－1にまとめた。

##### (2) 今までの研究の流れ

中学部では『豊かな心と生活をめざして』のテーマを踏まえ『豊かな学校生活』に焦点をあて 平成5～8年度の4年間『散歩』を中心に具体的な実践を行ってきた。また平成9年度は全日本特殊教育研究連盟の石川大会に合わせ『性の指導』について実践を深めた。

##### 平成5・6年度

学校生活の中では見えにくい子どもの姿が 外へ出る『散歩』の中で見えることを重視し 学級単位の『生活』の時間に『散歩』を取り入れ 実践を重ねた。研究を通して 子ども一人一人に目を向け 大人の視点だけでなく子どもの視点で散歩を見つめることの重要性が確認された。また中学部の教育目標に基づき 散歩における個人目標 集団目標を学年別に設定した。

##### 平成7年度

子ども同士のかかわり合いを大切にして 自然や社会へのつながりを深める『散歩』のあり方を探った。また 中学部における散歩のねらいを再考し 実践を整理することで活動内容表を作成した。

##### 平成8年度

『子どもと子どもをつなぐ学校生活づくり』に視点をおき『散歩』を含めた学校生活全般について実践を深めた。そして中学部3年間で育てたい『つながる力』について指導目標を図に表したり 大人の姿勢を明らかにしたりした。さらに実践してきたことを整理した。

##### 平成9年度

『性の指導』を実践するとともに 性教育指導計画表を作成した。

これらの研究は『豊かな心と生活を育てる』という目標のもと今年度も実践を続け さらに『おしゃれの日』『フリーデイ』へと発展してきている。

表Ⅲ－１ 大切にしていること

自己開放・自己表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハッピータイム（発表）で自分の意見をみんなの前で はずかしがらずに発表する</li> <li>・ハッピータイム（音楽）での身体表現 ダンス うた 楽器の演奏 これらは運動会の団体演技や表現会の劇に発展することもある</li> <li>・表現会の劇は教師が作ったものに子どもを合わせるのではなく 子どもから生まれた表現を大切に し それらを劇に取り入れる創作劇である どの子も主役で みんなで作り上げる劇である（今年度は「コスモスの花咲く村」）</li> <li>・運動会の団体演技ではテーマを決め 一人一人のイメージを大切に自由ののびのびと演技する（今年度は「今日はいいい天気」）</li> </ul>
つながり かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習や美術・職家を縦割りで行うことにより 学年を超えたかかわりが生まれている。またそれが 子どもたちにとって担任以外の教師とも接するチャンスになっている</li> <li>・養訓（コミュニケーション）の時間にはつながり かかわりを育てる実践も行っている</li> <li>・運動会の団体競技は勝敗はもちろんあるが 勝敗だけにこだわらず 子ども同士がかかわり 協力するものを取り入れるようにしている（今年度は「それいけバケツリレー」）</li> <li>・ハッピータイムではゲーム 音楽 発表 週番の4分野ともに子ども同士のつながりを基本に考えている また いろんな人を招き その人を知るといこともしている（留学生のイスラムさん スクールバスの運転手 ボイラーのおじさんなど）</li> <li>・いろんな人と出会う（教育実習等で来校する実習生 散歩での出会い 附属中学校との交流 外国からのお客さんなど）</li> </ul>
様々な経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見 ぶどう狩り りんご狩りなど その季節にしかできないものや 雪道の散歩 季節の花をさがしての散歩など季節感を感じる</li> <li>・かきぞめ大会 かるた大会 旗源平をする新年会など伝統的な行事を取り入れている</li> <li>・スライダープール バザー喫茶部での接客 スキー スケート そりなど実体験を重視している</li> <li>・公共の施設や観光地など初めての場所へ旅行や散歩で行くようにしている</li> <li>・日頃はできないダイナミックな活動を合宿で行う（登山 川あそびなど）</li> <li>・職家の時間でのバザー商品づくり（バザーで売れたよろこび）</li> </ul>
基礎的な知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合ったグループ学習（物の大小 電卓 買い物 手紙 トランプ しりとりなど）</li> <li>・調理 買物 栽培 アルバムづくりなど楽しみながら身につける</li> </ul>
自主的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハッピータイム（週番）での次週の目標を決める際 子どもたちが決めるようにする</li> <li>・ぶらり散歩の時に子ども主導の散歩をする</li> </ul>
自分で気づき行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は今何をすればよいかを理解させる手だてを考える（まわりの子の様子に気づかせる行動するまで待ってみるなど）</li> </ul>
見通しがもてる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の際 必ず事前学習を行い 行き先 持ち物等説明する</li> <li>・ハッピータイム（週番）で次週の予定の確認 学級朝の会でその日の予定の確認 終りの会で次の日の予定の確認をし 見通しがもてるようにする</li> </ul>
体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な種類の運動を体育 養訓 リトミック ハッピータイム（ゲーム）で経験する</li> <li>・実態に合わせてグループ分けされた養訓（筋力グループ 柔軟グループ 総合グループ）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間も学校生活の一部であり 指導のチャンスであると考え 子どもたちと接するようにしている（野球あそび サッカーあそび バスケットのシュート うた はたおり おしゃべりなど）</li> </ul>

※1つの授業 1つの行事で大切にされるのは 1つのことではなく これらいくつものが からみあっているが 表にする関係上 このようにまとめた。 （吉 谷 明）

### (3) 今年度の取り組み

#### ①フリーデイにたどりつくまでのこと

私たちは子どもたち一人一人が「生きている 今」を 豊かに生活することを通して自分の人生の“真の主体者”となることを願っている。これまで一貫してその願いに向けて とまどいや寄り道をしながらも そのために何をどう進めていくかを軸に 実践研究を進めてきた。人とのかかわり合いを豊かにしたり 素直に自己表現したりする場としてハッピータイム（学部集会）に取り組んできた。また“心とからだの揺れ”をしっかり受けとめながら 子ども主体の視点で学校行事の内容や取り組み方 指導のあり方などの見直しもしてきている。さらに「散歩」をテーマにした実践研究では 散歩が子どもにとって自己開放・自己選択・自己決定の場を提供したり 友だちとのかかわりを深め 自然や社会についての認識を広げたりするということも明らかにしてきた。散歩は子どもだけでなく教師にとっても自己開放の場となり素直に自分や子どもたちと向き合うことができた。とはいえ散歩の中で見せるいきいきとした子どもの姿に接するにつれ 教師の指導のあり方や教育とは何だろうという根源的な問いを始めるに至っている。

また「せんせい がっこう いいね」と語りかけてくる生徒が増えている一方 指示がないと行動に移ることができなかつたり 友達同士 うまく遊ぶことができず トラブルを起こす生徒の問題など内包する活力を人やものとの関係の中で 十分発揮しきれていない現状が依然として残されている。加えて集団参加を避ける生徒に対して その行動をどう理解し 何を指導していくことが大事か この生徒にとって学校はどんな意味があるのか どんな意味を持たせていけばよいのか 私たちの悩みはつきることがない。子どもたちは生活の大半を学校で過ごしている。この学校生活の中で子どもたちは充実した日々を送っているのだろうか 授業の内容はそれに応えるものとなっているのだろうかなど さししまった多くの課題が立ちはだかっている。

今年度はこれらの問いや課題を踏まえ 大胆にも「ずっと 長ーい 休みじかん」という『Free Day（フリーデイ）』を設定したわけである。不安だった。いったい何のために学校へ通わせているのかと言う親の表情が浮かんでくる。私たち教師はどんな役割（仕事）をすればいいのかという戸惑いが教師間に流れる。

くしくも21世紀にむけて出された新学習指導要領案では 小学校において『総合的な学習の時間』を教科の枠を越えて 子どもたちが興味と関心に基づいて活動する時間として設けることを提案している。これはまさに私たちがこれまで積み上げてきた実践スタイルである。さらに今改定では 子どもたちが自分で課題を見つけ 解決していく『生きる力』を育てることを最大のねらいとしている。フリーデイをこれに応える一つの方策として位置づけられるのではないだろうかと考えたのである。

#### ②実践途中の今言えること

残念ながら 実践研究をスタートさせる時点において指導目標や指導のねらい 実践の進め方などを明確にうちたてることはできなかった。5回のフリーデイを実施した現時点に

おいてこれらについて不十分ではあるが整理してみた。

#### ア. 指導目標

- 自分で考え 自分で判断し 周りの環境（人や物）に働きかけ 行動する力を育てる。
- 『生活の主体者』となる経験をし その喜びを知る。ここには『散歩』学習でねらった3つの指導目標『自分からしてみたいという意欲をもつことができる子』『自己選択 自己決定し 自主的に行動する子』『友だちと かかわり合うことができる子』などが反映されている。

#### イ. 指導のねらい

- コミュニケーション能力を高める
  - ・「はい いいえ」をはっきり伝える
  - ・交渉能力をつける（伝達 理解など）
- 遊びを広げる
  - ・物を利用する力を高める
  - ・友達と一緒に遊ぶ経験を積む
  - ・遊びのルールを知る
  - ・友達を誘ったり 断わったりする
  - ・遊びを考えだす
- ものごとを処理する能力を高める
  - ・困った時 どうすればよいのか 体験しながら問題解決能力を育てる
- 生活をつくる
  - ・見通しをもって 過ごす
  - ・遊びなどを提案する
  - ・いろいろな体験をする

#### ウ. 指導方法と手順

『フリーデイ』が現在の形態にたどりつくまでにはいろいろな論議が交わされた。当初は次の3つの案が考え出された。

第1案 自分から「してみたい」という意欲をもち 自分で好きな学習を選択できるフリーデイ。つまり『好きな学習に自由に参加できる日』とする。

第2案 全く半日を自由な日にし その雰囲気を確認め合うために私服で登校する。つまり『隔週の土曜日をフリーデイにし私服登校』とする。

第3案 比較的子どもたちがのびのびと自分の本来の姿を見せる2限後の15分間の休み時間と昼食後の休息を長めにとる。つまり『毎日の休み時間を少し長く』とる。

これらの3案の中から第1案を具体化しようという話になったが活動内容を教師があらかじめ準備するというのは 教師の考えの枠の中に子どもたちを入れてしまい 指示も多く出してしまう恐れもある。それでは 本当に子どもたちがしたいことが出てこないのではないかという心配が出てきた。いったい子どもたちが何をしだすのか もっと純粋に子どもたちのありのままの姿をみたい。ということで考え出されたのが 平日の午前中を自由

に活動できる「ずっと 長ーい 休み時間」としてのフリーデイである。

指導方法は

- 「教師主導」から「子ども主導」への指導体制をとる。教師から「～しなさい」「～しよう」ではなく 子どもの求めに応じてかかわりを開始する。
- 子どもの活動に際し 教師の参加手順を考える。

見守る→求めに応じる→共に楽しむ

- 生活年齢に見合った環境設定をこころがける。
- 子どもとていねいにコミュニケーションをとりながらかかわるようにする。

### ③予想

『生きる力』を育てる視点からフリーデイという指導形態の有効性について考え立てた予想は次のようなことである。

- ア. 子どもたちは必ず何かを始めるだろう。なぜなら教師からの指示がない。教師からの働きかけがない。必ずや何かをしだす。本来子どもはそんな存在である。したがりやさんである。
- イ. 子どもは必ず自分で考え選択していくだろう。なぜなら教師からの指示がない。自由に何ものにも束縛されず 自分の判断で動くことができる時間・場所・物などが保障されている。
- ウ. 子ども同士 必ずつながったり離れたり さまざまなかかわり合いが生まれるだろう。
- エ. 子どもは必ず教師（大人）に何かを求めてくるだろう。

### ④研究方法

- ア. フリーデイの記録をとる。記録の方法はビデオ録画と観察記録である。しかし 観察記録は1回で中止することになった。子どもの求めに応じて子どもとかかわっていくことがより重要であると考えたからである。
- イ. 実施後 記録や観察をもとに話し合いをもち その都度問題点を出し合い 次回に向けての共通確認をとりながら進めていく。

(今 井 康 弘・梶 蔵 千恵子)



## 2.フリーデイの実際

(1) 第1回から第5回までの内容

### 第1回 フリーデイ 6月16日(火)

天 候	晴 れ	気 温	24℃		9:30	ホールに集合 (自由行動)
使 用 場 所	中学部各教室 ホール 言語学習室 図工室 体育館 運動場 小学部各教室 (行事のため外出) (高は 平常通り授業)			流  れ	11:30	ホールに集合し 今日のフリー デイのビデオを見る
					12:10	終了
今 日 の 設 定	<p>〈子どもたちにどう伝えたか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初めての試みなので「フリーデイ」について子どもたちには「長い休み時間だよ」「好きなことをいっぱいできるんだよ」と話す。</li> <li>どこに行っても良いが校舎外には出ないこと。</li> <li>終了後(11:30)全員で今日のビデオを見て 自分や友達の遊んでいる姿を振り返ることを告げる。</li> </ul> <hr/> <p>〈教師の姿勢〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師8名中6名は中学部エリア・体育館・運動場にそれぞれ持ち場を決める。1名は移動する子に付く。1名はビデオを撮る。他は子どもの行動を分かり易く「行動記録表」につける。</li> <li>子どもから遊びの誘いがあっても基本的にはのらないようにし 記録に徹する。</li> </ul>					
子 ど も の 様 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリーデイが初めてということもあり子どもたちは遊びだしても長続きせず 教師の顔を度々見に来る。中には「次何する?」「まだ終わらないの?」と聞きに来ることもあった。</li> <li>いくつかの遊びの輪ができるが そのほかは殆ど一人遊びが多かった。</li> <li>結びつきの強い子は 2時間殆ど一緒にいてくっついていた。</li> <li>今までしたいと考えていたと思われること(人のいないところへ行く 教師の気を引く)をずっとしていた。</li> </ul>					
終 了 後 の 話 し 合 い	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの自主的行動を見るため注意するなどの言葉掛けをしないルールだったのでK子とG男が誰もいない教室で寝ころんで戯れていた行為を どう対処すればいいか悩む。また 泥水を飲もうとしたり 土を頭部に付けたりする行為は衛生的に良くないので注意しようと言う提案があった。</li> <li>子どもたちがホールで音楽を聴いて踊ったり体育館でフープを使って遊んでいたのは これまでのH・Tや学級での経験が基盤になっている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">教材や教具を準備してある程度環境設定を行っても良いのでは?</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">しかし 今回は初めてのフリーデイで子どもたちもよく理解していなかったので次回も今回のままの形で臨む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が精神的にとっても疲れたという発言が多かった。というのも子どもたちの行動をできる限り行動記録表に記録したので 書くことに集中してしまい 子どもたちの意味ある行動が分からなかった。</li> <li>また子どもたちの誘いにのらないルールだったので我慢するのに疲れてしまった。</li> </ul>					

## 第2回 フリーデイ 6月30日（火）

天 候	晴 れ	気 温	29℃	流  れ	9 : 20	ホールに集合して説明を受ける (自由行動)
使 用 場 所	中学部各教室 ホール 言語学習室 図工室 体育館 運動場 (小・高は 平常通り授業)				12 : 00	ホールに集合してこの日の感想を 聞き終了する
今 日 の 設 定	〈子どもたちにどう伝えたか〉 ・今日は小学部・高等部とも普通通り授業しているので邪魔にならないようにする。 ・再度「長ーい休み時間」「何をしてもいいよ」を強調する。 ・「天気がよいので運動場に出られる。」と伝える。					
	〈教師の姿勢〉 ・1回目と同様 教師はあらかじめ 持ち場を決め 配置。 ・2回目は子どもたちは慣れてくるので 子どもたちの自然な動きを大切にしたい。 ・行動記録表には記入しないが 特徴ある行動は記憶し 終了後に記録しておく。 ・最後にビデオは観ずに できる限り自由行動の時間を長くとる。					
子 ど も の 様 子	・2回目ということで少しフリーデイを理解して子どもたちの行動範囲が広がる。その為か 1回目はあまりでなかった運動場にもたくさん子どもたちが出る。 ・一人遊びの子も行動範囲が広がり 人のいるところにも少し顔を出す余裕が出てきた。 ・子どもたちの個性が少しずつ出てきて いろんなかかわりをするようになった。 (ex. オニごっこ ブランコ 自転車など) ・教師が少し応じてくれるようになったので 遊びの輪がいくつかできていた。					
終 了 後 の 話 し 合 い	・1回目・2回目フリーデイを通じて 子どもたちをタイプ別に分けてみた。 (自己中心タイプ 遊びの核タイプ ふらふら付いていくタイプ 一人遊びタイプ) ・かかわり(友だち同士・大人との)についても考えた。 (結びつきの強い関係 遊びのできる関係 一人遊びが主だが大人が入ると遊べる 物を相手に一人遊びなど) ・それぞれの子の問題点と目標を考え それについてどのような対応又は環境設定が必要かを 考え 次回のフリーデイに臨む。 ・半日の自由さを味わうと 子ども心にその自由さが芽生える。 (今度はアレもしてみたいなぁ)					

### 第3回 フリーデイ 9月11日（金）

天 候		晴 れ		気 温		29℃		流 れ	9 : 25	ホールに集合して説明を聞く (自由行動)	
使 用 場 所	中学部各教室   ホール   言語学習室 図工室   体育館 (2限のみ) 運動場半分 (駐車場草刈りのため) (小・高は平常通り授業)						12 : 00		ホールに集合して感想を聞き 終了する		
今 日 の 設 定		〈子どもたちにどう伝えたか〉 ・ 体育館は授業で使っているの で 2限のみ遊べる。 ・ 運動場は半分駐車場になっているので車に気をつけること。 ・ 先生に声かけをして遊んでも良いよ。									
		〈教師の姿勢〉 ・ 子どもの要求に応じて 少し遊びを広げたり 遊ぶきっかけを作っても良い。 ・ 一応持ち場は決めるが 子どもの要求 様子に応じて 移動してもよい。 ・ 特定の子どもに対して 意識してつきあっても良い。 ・ 子どもたちのしたいことを大切に し 教師側から活動を設定しない。									
子 ど も の 様 子		・ 教師が少し入ったせいもあるが 一つの遊びが1時間以上も続くケースがいくつか出てきた。 ・ 自分のしたいことが見つかり 1回・2回ではくっついてた友だち同士も離れて遊んでいた。 ・ 特定の子としか遊べなかった子が 教師を誘って遊んだ。 ・ 1回目・2回目の時も友だちと遊んでいたが より親しく遊んでいる様子がうかがえた。 ・ 十分一人遊びをしていて うれしそうな顔で終えた子もいた。									
終 了 後 の 話 し 合 い		・ 教師は少し意識して遊びの中に入り 遊びの輪をつくり周りで見ている子らも巻き込んでみたら いくつかの遊びの輪ができた。 ・ 前回まで遊べなかった子でも 題材が良くて教師の接し方も良ければ 教師となら長時間遊ぶことができた。 ・ 子どもたちも3回目となると フリーデイというものをだいたい理解し 楽しみにする子も出てきた。 ・ 個人とじっくりつきあったこともあり 楽しそうにフリーデイを過ごせた子が多かった。 ・ 次回は教師がベースとなる活動 (図工室の整頓) をする。→結果的にはできなかった。 ・ ホールには少し卓上ゲームを用意する。 ・ 今までの子どもたちの活動を取り上げて一緒に遊び 子どもたちの遊びの幅を広げてあげる。 (ex. トランプ   オセロ   めんこ   etc) ・ フリーデイも3回して慣れてきたので 給食・休み時間も声を掛けずにいたら子どもたちはどうするか。特に興味のある給食の始まりにはどんな行動をとるか見たい。 ・ 教師の感想として 遊びの輪を作ることができて前回より楽しめた。									



# 第4回 フリーデイ 10月14日（水）

天 候	晴 れ	気 温	24℃		9：30	ホールに集合して説明を聞く （自由行動 ※給食・昼休みを含む）
使 用 場 所	中学部各教室 ホール 言語学習室 図工室 体育館（2限後）運動場 高等部各教室（現場実習で不在） （小は平常通り授業）			流  れ	13：10	ホールに集合して感想を聞き 終了する
今 日 の 設 定	<p>〈子どもたちにどう伝えたか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2限後から体育館が使える。</li> <li>・ 今日は給食も昼休みもフリーデイになる。特に給食は「自分たちで行って好きな子と食べてもいいよ」と話す。</li> <li>・ 助言者（大学の先生）も一緒に見ているので 子どもたちに紹介する。</li> </ul> <hr/> <p>〈教師の姿勢〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終了を昼食後の昼休みまでとし 子供たちの主体的な動き 特に給食の始まりを注意して見る。</li> <li>・ 教師は子どもたちに誘われたら意識的に遊びの輪を作り 周りの子どもたちがどうするか見る。</li> </ul>					
子 ど も の 様 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4回目ということもあり 自分から遊びを見つけたり考えたりする子がでてきた。</li> <li>・ 給食の始まりでは中Ⅰは担任が独り言のように給食のことを言ったので 全員が早く移動することができた。</li> <li>・ 中Ⅱ、中Ⅲには 給食時間になったことが分かって自分一人ではいけない子 周りが行かないので動けずにイライラしていた子「おなか空いたね」と言っているが自分から動けなかった子などいろいろいた。</li> <li>・ 最後に一人になっても動かず担任に言われようやく行動した子もいる。</li> </ul>					
終 了 後 の 話 し 合 い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての状況のせいでもあるが 興味があるであろう給食が始まって自分から動けなかった子が多かったし また友達の動きを見て行動している子も多い。</li> <li>・ 今までのフリーデイで子どもの自主的な行動を大切にしてきたと考えていたが まだまだ教師の指示を待っている受け身の子を作っている気がする。</li> <li>・ 教師の感想として ここにきてフリーデイが何の目的のためのものなのか難しくてつかみ切れていないとの声があがった。フリーデイの壁に当たってジレンマに陥る。</li> </ul> <p>《助言者の感想より》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材資源が少ないので子どもたちにとってフリーデイがレジャー的になっている。</li> <li>・ 素材資源があってもどこにあるか場所が分からなかったり 勝手に使えないと子どもたちは思っているので 素材・資源が活かされているとはいえない。また 勝手に使って良いと理解させる必要もある。</li> <li>・ 教師の姿勢としてこうしたら良い 悪い を教えるのではなく 教師自らわき上がるものを大切にする。</li> <li>・ 教師は 子どもが勝手な行動をとり不適切な結果に終わらせたくないで口を出してしまうところがある。</li> <li>・ フリーデイでは『教師』根性に引きづられない。</li> </ul> <p>・ 子どもとは本来“したがり屋”である。しかし「しなさい！」ではお互いに嫌である。それで次回はそれぞれの教師が好きなことをしている。その内容は職家 美術 生活などで取り組んできたことでも 何でも良い。そのことは子どもには伝えない。</p>					

## 第5回 フリーデイ 10月27日（火）

天 候	曇 り	気 温	18℃	流 れ	9：15	ホールに集合して説明を聞く (自由行動) 給食・昼休みも含む
使用 場 所	中学部各教室 ホール 言語学習室 図工室 運動場 体育館の使用は不可（表現会の練習のため） (小・高は平常通りの授業)				13：10	ホールに集合して感想を聞き終了 する
今 日 の 設 定	〈子どもたちにどう伝えたか〉 ・ 体育館は表現会の練習のために使えない。 ・ 今日も 給食とその後の休み時間もフリーデイに入るから 好きな友達と食べてもいいよ。					
	〈教師の姿勢〉 ・ 用意したもの（カレンダー作り カレンダーの台作り コスモスの花びら染め ミシンがけ アイロンがけ 砂絵 焼き芋 園芸） ・ フリーデイが始まるまでそれぞれの教師が何をし出すか分からないように 始まりは告げない。 ・ 教師のそれぞれの行動にどのように気付き どのように参加してくるか注目する。 ・ とにかく教師が好きな活動をして 自ら本気で楽しんでもみる。それが子どもにどう影響するか。					
子 ど も の 様 子	・ 初めは教師のすることを見ていたが 途中から興味のある作業には参加していた。 ・ 授業とは違い これだけしなければならないというものはなく 嫌になればやめたり ほかの活動に参加しても良いという自由な雰囲気があった。 ・ どの活動にも参加せず 自分で好きなことをしている子どももいた。 ・ 殆どの子どもは どれかの活動に参加していた。中にはいくつかの活動に参加した子もいた。					
終 了 後 の 話 し 合 い	・ 活動の中で教師からの指示は一切なかった。子どもたちの“したが屋”の虫がうずきだし 子どもたちが自ら活動を選んで 参加したり他の活動に自由に移ったり選択していた。 ・ 今回は教師も一緒に楽しむことを考えていたので 子どもたちの活動が少なかったかもしれないが 徐々に多くしていき 目標として子どもたちが主導権を持って作り上げられるようになればよい。 ・ 終了後教師の間で「共に楽しむことができて良かった」という意見が出ていた。					

(2) 第1回から第4回までの実践から

### 「一輪車、乗る！」

T男は一輪車が大好きな1年生である。『T男といえば一輪車 一輪車といえばT男』であり 今では学校の中では知らない人はいないくらいである。だが誰もがはじめから一輪車に乗れないのと同様にT男もはじめから乗れたわけではない。そこにはT男のたゆまぬ努力と フリーデイでの教師との物語があった。

T男の家の周辺は交通量が多く 親から自転車に乗ることを止められていたこともあって 市内の特学分校から中学部に入学してきた時 T男は自転車にも乗れなかった。4月天気の良い日に 何人もの子どもたちが小運動場に出て休み時間を楽しんでいた。なかに自転車を乗り回している子が3,4人いた。それを見たT男もやりだした。運動能力の高いT男は 教師の手をあまり借りなくても ほんのわずかの期間で乗れるようになった。

T男は 人がしていることを何でもやりたがる。自転車の例もそうだが 授業の中でもアイロンやミシンが出されると 一番にやりたがったし 休み時間に友だちがはた織りをしているとそれにも挑戦し マフラーを仕上げている。

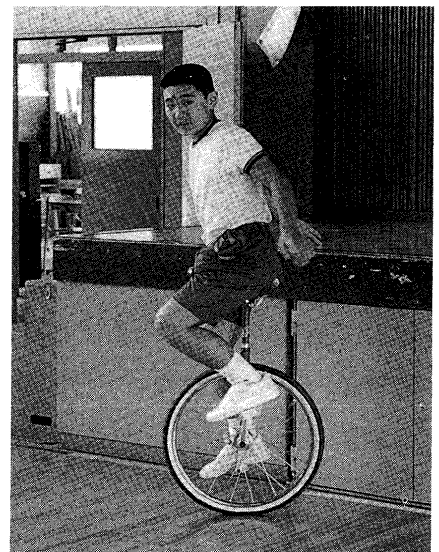
そんなチャレンジ精神旺盛なT男が挑んだのが一輪車だ。高等部の先生が一輪車の練習をしているのを見て 例によって“自分も”と体育館の用具室にあった一輪車を引っぱり出してきたのは やはり4月のことだった。肋木の横棒につかまりながら一輪車に乗り練習を一人で始めた。ペダルを踏み込むごとにタイヤが左右にぶれて なかなか前に進まない。それでも何日かすると ペダルを一回転するくらい 転ばずにこげるようになり スタートの場所もステージや跳び箱の横からと変わっていった。手でつかまるのではなく 腕で体を支えてスタートできるようになったのだ。それを見た何人かの教師が『乗れるようになるんじゃないか』と見込んで手を貸すようになった。だが 自転車の時のようにうまくいかなかった。転んでしたたかに腰のあたりを打つこともあった。体育館には他にも野球やバスケット 追いかけて等をして遊んでいる子どもたちがたくさんいて 練習も思いのままにならない状況にあった。それでもT男は練習を続けていた。一方教師たちは上達が進まないT男の一輪車乗りの練習につきあう度合いが少なくなっていった。

そんな中で行われた第1回目のフリーデイ。T男は先ず体育館に現れた。いつもの休み時間にはない体育館がそこにあった。遊んでいる人がバラバラと2,3人。早速一輪車を出してきて そこにいた教師に「手 もつ！」と叫ぶ。『やはりそうきたか』と内心思ったが子どもの行動を克明にチェックしノートする という役割が課されている。『今日はダメだよ』と無言で首を横に振り断る。しかたなく一人で練習を始めるが うまく乗ることができない。2,3メートル進んでは転んでしまう。また教師のそばに来て「手 持って下さい」と頼みこむ。答えはやっぱり首は横。「手 もってくださいーい」今度はちょっと口調が変わった。小さく なさけないような声で 哀願調だ。元来T男は大きな声で「足キックする」とか「○○先生つねる たたく」「ガラス割る」と口走っている元気者だ。実際いらしたり 気に入らないことがあると つねりやキックがでる。それが今は違う。強気で通しているT男が お願いし 頼み込んでいるのだ。教師は折れた。

久しぶりに手をもって練習してみると 前よりもずっと上手になっていることに気づいた。誰にもじゃまされずに縦横無尽にのびのびと乗れたことがそう感じさせたのだろうか。いや それだけではあるまい。『一輪車に乗れるようになるまで 諦めないぞ』というT男の意志の強さが教師がいなくても根気よく練習をさせてきたのだろう。こう考えると感服以外の何ものでもない。

二人とも汗びっしょりになって一輪車と格闘した。じゃまになる物もなく 時間もたっぷりあって練習を続けた。乗っては転び 転んでは起きあがり また乗った。いつの間にか『この困難を二人で絶対に乗り越えてやるぞ』といった連帯感のようなものを感じた。このフリーデ이의 この時間の中で T男は一輪車乗りを確かに上達させた。そして 一人での練習では満たされないものをT男は得て それにつきそえた喜びを教師は得ることができた。フリーデイがこの日にあってよかったと強く感じた。一輪車乗りの練習を通して T男の諦めないで最後まで頑張るという意志の強さや 手を貸して欲しいときにそれを伝える力をT男も持っていることを改めて発見できた。

一学期も終わりの頃に すっかり一輪車に乗れるようになったT男は 表現会でもステージ上で難しい8の字走行を披露して 喝采を浴びた。もちろん 今でも学校に来る日は一輪車に乗らない日はない。そして飽くなき次への挑戦を試みている。スピードを出して乗ること。さらに 一輪車に乗りながらのバスケットボール。パスを受けたりパスしたり シュートやリバウンドを取ることも。



一輪車の練習をするT男

一輪車に乗りたくて乗りたくてしょうがないT男。「一輪車 乗る！」今日も元気な声が学校に響いている。

(北 川 伸 二)

「オニ、オニ・・・オニ・・・」

一日の始まり 朝 生徒と先生が教室で顔を合わせた場面を思い浮かべてもらいたい。「オニ、オニ・・・オニ・・・」と言いながら 担任教師に走り寄ってくるR男。「おはよう」と言うべきところをR男は この言葉を挨拶がわりにしている。一体何のことなのか？そのきっかけは ある日のフリーデイのある出来事から出発している。

第3回目のフリーデイ。R男はおもちゃのカラオケで歌ったり 友だちがめんこで遊んでいるのを見たりして過ごしていた。そこにくだんの先生が現れた。はじめは 学年がちがうH男と先生が話していたので近づかなかったが H男が離れたとたんにR男が走り寄ってきた。「おいで おいで」と言って手を引っ張る。動かないでいると先生のめがねを取ろうとする。めがねを取れば 先生がついてくることを経験から学んでいたからだ。R男は自分なりのやり方で一生懸命に先生を誘う。顔は笑っているので『一緒に楽しいことをしようよ』と誘っていることが想像できる。担任教師には どこで何をしようと言っているの

かが分かった。前に一度 ほんの短い時間だったが 鏡の前で百面相をして見せたことがあった。それをしろと言っているのだ。だが 正直なところR男と一緒に遊ぶのは覚悟がある。一度始めたら なかなか離してもらえないからだ。

R男は人の顔を見るのが好きだ。展覧会で作品を見ずに他の見学者の顔ばかりを見るので困ったという 一緒に行った父親の話を聞いたことがある。人は うれしい時 怒った時 哀しい時 楽しい時 驚いた時 その感情が顔に表れ 周りの人にもそれらの感情が伝わるが R男はそのことについてとても敏感で興味もある。以前の百面相の時には 笑い顔や泣き顔 驚き顔よりも 目をつり上げ歯をむき出しにした怒り顔を一番よく喜んだ。

話をフリーデイの日に戻そう。手を引いてもめがねを取ろうとしても動かない先生に今度は鏡の前に椅子を運んで また誘う。『さあ どうぞ。ここに座って』という訳だ。ここまでされては せざるを得ない。先生の気持ちは動いた。椅子に座り さあ はじまり はじまりー。両手で顔を隠し パッと左右に開く。そのたびに 喜・怒・哀・楽……と変化する顔が飛び出してくる。R男はおおよろこび。特に『怒』の顔には「オニオニ……」と連呼し 興奮のあまり先生の頭や手を叩いたり掴んだりした。

百面相を5分もするといささか疲れる。しかし もうやめようと言っても R男は許してくれない。椅子から立ち去ろうとするのを引き戻し「オニ オニ」と言って自分でも両手で顔を隠して その真似をする。心の中で『しょうがない子だなあ』と思ったが顔には出さず また続ける。そうしているうちに先生自身が楽しくなってきた。子どもが喜ぶ姿には勝てないものだ。知らない間にR男から元気をもらっていた。その後しばらくの間 二人の百面相あそびが鏡の前で続けられた。

この日以来R男は 登校してから帰るまでの間 担任教師の顔を見るたびに「オニ オニ」と言って近寄ってくるようになった。休み時間ばかりでなく 授業中にまでそうしてくるので困ってしまうこともあるのだが その要求たるや強烈なものがある。

第3回目のフリーデイにあった百面相あそびでは はじめ担任教師は「しかたないなあつきあってやるか」という思いでいた。しかし フリーデイ実施の前に話し合われた『要求に応じて遊びを広げたり 遊ぶきっかけを少しつくってもよい』という確認と R男の“この手がだめならあの手があるさ式”に考えた積極的な行動に 教師も『よし 今日はとことんつきあうか』と心を決めた。R男は決して友だちと遊べない生徒ではない。フリーデイでは友だちと関わって遊んでくれた方がよいという教師の思いもある。しかし『R男が この時間はこの先生とこの遊びをすると自己決定したんだ』と考えれば この固定観念も崩される。そして 教師自身が楽しい時間をR男と共有できたことを喜んでいる。

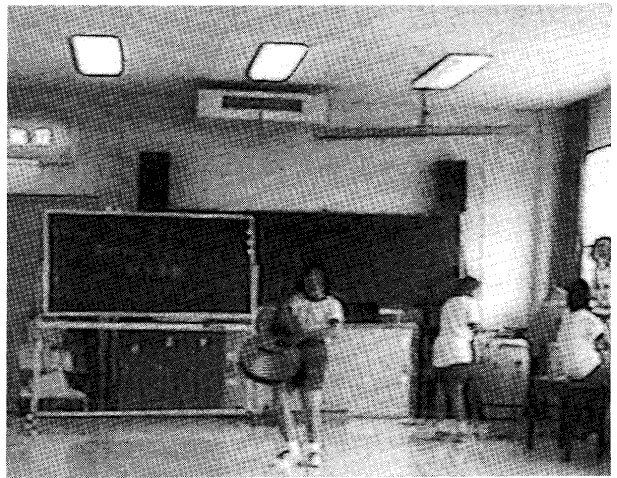
フリーデイでの教師と生徒との関わりのあり方 支援のあり方などに関連したトピックをあげたが 今後さらに実践を通して フリーデイでの教師の役割について考えていきたい。

(北 川 伸 二)

## 即席なりきりバンド

第3回のフリーデイのとき 中学部ホールでM男がエレクトーンを弾こうとしていた。中学部ホールにはいつもエレクトーンやピアノ コンガ CDラジカセがおりてあり I先生のギターコーナーもある。休み時間には楽器を触る子 I先生のギターを聴き歌う子 テープをならして踊る子と それぞれ音楽に親しむ姿が見られる。M男も音楽が好きでI先生と歌を歌ったり 楽器に興味を持ち時々触りにきていた。「でんき。先生 でんき。」M男がコンセントをうまく入れられず苦労していたので手伝う。嬉々とした表情でエレクトーンに向かうM男。彼の喜びの表現はとてもストレートで にっこり笑って「いいねえ。」と言うのが口癖のとても明るい男の子だ。M男はいろんなボタンをいじったり音を調節してじゃんじゃん弾きはじめた。

M男が弾き出すとT子も弾きたくてそばに寄ってきた。T子も音楽が大好き。とてもリズム感が良く ダンスを踊れば大人も真似できないオリジナルのステップを踏む。いつも元気いっぱい遊ぶ彼女はフリーデイも生き生きと活動している。1回目のフリーデイではフラフープを使ってケンパを考え出した。また 学年がちがうM男と遊ぶ姿もよく見られM男とは相性がよいようだ。T子はしばらくM男と一緒にエレクトーンを触っていたが独り占めできないのでダンスを踊り始めた。



ジャンジャンならそう

こうやってそばで見ていると私も何かやりたくなってくる。自分自身もM男と同じように楽器を思い切り弾けたらと思っていたのだ。しかし 学生時代から音楽は苦手でリズム感もない。公の場では恥ずかしくて弾けない自分だが 今日はフリーデイで気持ちも自由。時間もたっぷりあることだし 騒いでも迷惑をかけないだろう。うまくなったつもりでそばにあるコンガをエレクトーンに合わせて叩いてみた。

コンガを叩き出すとK子が聞きつけてそばにやってきた。K子は普段の会話に歌を入れると非常に喜ぶ 替え歌が大好きな女の子だ。彼女はいつもI先生が愛用している楽譜の本を持ってきて「これやって。」と注文してきた。I先生ならギターで正しく弾くのだが私もM男も もちろん楽譜の通りには弾けない。だが 弾いているつもりでM男がエレクトーン K子がコンガ T子がダンスをしたりギターをしたり そして私がコンガと歌を担当した。

中学部ホールはちょっとうるさいぐらい盛り上がった。私を含め皆 なりきって夢中で演奏している。みんなニコニコ楽しいのは下手とはいえ音楽の持つすばらしさなのだろう。「つぎこれやって。」と私に次々と注文するK子。「じゃあ次は『アイアイ』ねー。」という「わーい。」と喜ぶ。K子がリクエストする曲は中学部のみんなが親しんでいる曲ばかりだ。だからM男もT子も反対することもなく すごくノリがよい。特にK子はリズムをう

まく取り コンガを叩き 体を動かし 生き生きとしている。コンガは普通手で叩くものだが 彼女はばちで叩いている。これは彼女が憧れている鼓笛隊の小太鼓のイメージといい音を出したいという彼女なりの工夫なのだろう。前回までのフリーデイでは自分の楽しみをうまく見つけられず クラスメートのG男を相手にして二人の世界にはいることが多かったK子。今回は大好きな歌をききながら 楽器を使い自分を表現し 私を通してM男 T子とも遊ぶことができた。そのせいかK子は4回目のフリーデイでもG男から離れ手に壊れた太鼓を持ち M男 T子 I先生と歌って遊んでいたようだ。

ひとり またひとりと自然に集まり 盛り上がった即席バンド。それは日頃の環境設定や体験が子どもたちの中に積み重なって ちょっとしたきっかけ 働きかけで 表面に出てきたものだったと思う。また 音楽の持つ力をあらためて感じ 自分自身が 子ども達と素直にかかわれたことも 嬉しく感じたフリーデイの一コマであった。

(竹 内 君 江)

### めんこ初体験

H子は中学部3年生。担任である私との一日は 教官室前の廊下から始まる。

毎朝 教官室前で足を広げベッタリと床に座り込んでいるH子。何人もの先生に「おはよう」「恥ずかしいよ」「教室に行くよ」などと声をかけられてもまったく動こうとしない。それが 職員朝礼を終えた私が教官室から出るのが見えると さっと立ち上がり私の「H子おはよう」の声を背にして 大きな声でひとり言を言いながら私の先に立って教室へと一目散に歩きだすのである。4月からずっと続いているH子との一日の始まり。彼女からの「おはよう」の声はずっと聞くことはできなかった。

彼女はいつも私を待っている。動き出すきっかけを作ってもらうのを待っている。しかし 簡単には働きかけに応じようとはしない。どうしたらスムーズに動いてくれるかを常に気かけながら彼女とかかわる毎日であった。

第1回 第2回のフリーデイでも 彼女は気をひこうとして 私のすぐそばでひとり言を大きな声で言ったり 友だちを怒ったりしている。「もしおなかいなくなったらどうしよう」とわざと聞こえるように言う。そのくせ直接的な働きかけや声かけをするわけではない。また働きかけや誘いには応じないのに 場所を移動すると追いかけてきて 同じようにそばでひとり言や友だちへの注意を繰り返すだけである。本当は 私を独占していっしょに遊んでほしいという気持ちでいっぱいなのに 素直にそれを表現できず へんな関わり方になってしまうようだ。

そして迎えた第3回フリーデイ。彼女は その日もまず教室でY男に一方的に話を始めた。聞こえてくる言葉は私を意識しわざと聞こえるように言っている。どんどんエスカレートし自分では收拾がつかなくなってきたようなので 私のほかにS先生やT先生が順番に間に入り ようやくY男は解放された。そのあと彼女は私の後を追いかけておもちゃのカラオケを手にしながら体育館を歩き回った。そしてまた教室にもどった私を追いかけてきてホールで遊んでいたY男を見つけ その前に座り込んだ。また始まるのかと心配したが彼女はT

先生相手にカラオケを始めた。Y男はめんこをしていた。でも遊び方は知らないらしく ただ積んだりくずしたりしているだけだった。私はついこの間小学校4年生の我が子にめんこを教えてもらい ひとときを楽しく過ごしたばかり。Y男とも楽しく遊べるかもしれないと思い 彼に遊び方を教えてあげたくなり そばにいて教えた。彼はすぐにのってきた。そばでH子とカラオケをしていたT先生ものってきた。3人でワイワイ楽しみ



“めんこ 楽しい!!”

はじめた。するとH子もカラオケをやめて「ねえーどうするが？」と自然に入り込んできた。そしていつのまにかしっかり私の横に座っていた。さっきまでどうかかわったらいいかかわらず ただ私を追いかけていただけの彼女がめんこをいっしょに楽しんでいた。理解力のある彼女であるがわざとわからないふりをして甘えてきたりもした。これまでどんなに誘ってもいっしょにしようとしなかった彼女が自分からそばにきていっしょに楽しそうに遊んでいる・・・それは私にとって大きな驚きであり喜びでもあった。

しばらく遊んでから休憩することにした。でも彼女は一人でめんこを積んではくずし遊び続けていた。そのうち大きな声で「楽しい！こんな初めてや！」とひとり言を言うのが聞こえてきた。こんな生き生きと遊ぶ彼女を見るのは初めての様な気がした。

その日からしばらくめんこは教室に置かれ 彼女は休み時間になるとめんこを出して遊んでいた。時には私を誘っていっしょに遊んだ。その時はいつも楽しそうなH子だった。その日から私のH子に対する構えが消えた。どうやったらスムーズに動いてくれるかなどと考えず ストレートに自然にかかわれるようになった。そして彼女もそれを自然に受けとめてくれた。それからしばらくして 一日の始まりである教官室前で私の「H子おはよう」の声かけに 小さな声で恥ずかしそうに「おはよう」と答えてくれるH子がいた。

第4回のフリーデイでは 彼女は始まるとすぐにそばに来た。座っていた教卓から私をどかして遊びはじめた。そのうちO子が弾いているピアノカが弾けるようになりたくて「教えて」と持ってきた。「O子に教えてもらったら？」という「O子ちゃん 教えて」とO子に頼んでいた。それからY男が散らかした紙芝居を片づけていると そばに来ていっしょに片づけはじめた。最後はその紙芝居を読んで聞かせてくれた。彼女はもう構えることなく思う存分甘え いっしょに遊ぶことができるようになっていた。

H子にとってもめんこ遊びをいっしょにできたことが大きな転機になっていた。フリーデイというゆったりとした時間を設定し 日常のかかわり合いだけではできないことを経験したことで大きく変わったH子と私。一日の始まりの教官室前の「おはよう」が毎日楽しみにになっている。

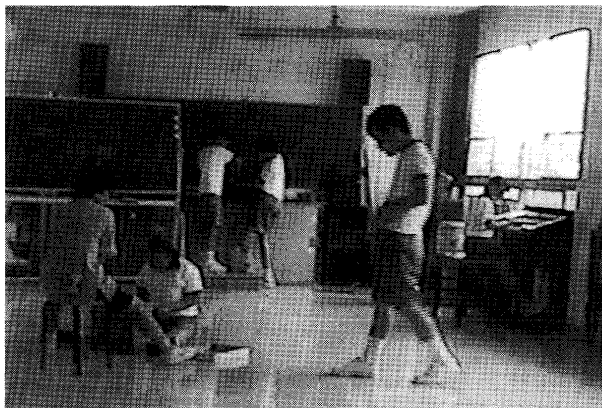
めんこ遊びではもう一つの発見もあった。

D男は 中学部3年生。言葉はなく 自発的な行動も少なく 教師の指示を待つことが多い生徒である。お茶を飲むことと土いじりが大好きで 前回までのフリーデイではい



つも一人で 部室のお茶を飲みに行ったり 好きな写真やガイドブックを見たり ソファで居眠りをしたり 土いじりをしたりして過ごしていた。

その日も 前半1時間余りはソファで居眠りし そのあとホールと教室を行ったり来たりして 写真やガイドブックを眺めていた。そのうちホールで楽しげにめんこ遊びをしていることに気づいたのか なんとなく興味ありそうな素振りを見せている。声をかけてみるとすぐにそばに来て 遊びの輪のなかに入ってきた。そして順番がくると自分の札を積み重ねためんこの上にのせてそれを指でギュッギュッと押している。そのうち大きなめんこを下にして大きさの順に積み重ねなおしてギュッギュッと指で押したりして楽しみはじめた。もともとトランプが好きで 家ではよくトランプを持ち歩いて遊んでいたのもめんこはそれに共通する楽しみがあったのかもしれない。まためんこに描かれたドラゴンボールの絵もかわいくて気にいったのかもしれない。それにしても いつも一人でいるD男が遊びの中に入ってきていっしょに楽しんだということは大きな喜びであり D男の新しい



面の発見であった。

しばらく休憩することにして D男もその場を離れた。しかし 一人だけH子が残って遊びつづけていた。するとD男は自分からその場にもどってきて まためんこを積み重ねて指でギュッギュッと押し始めたのである。よほどめんこが気に入ったのであろうか。D男が自発的に戻ってきたことにもう一度びっくりさせられた。そして その日以降教室に

“おもしろそうだなあ”

置いてあっためんこを時々手にして楽しむD男の姿もみられるようになり D男とのかかわりのてがかりを得られたようでフリーデイで得られた大きな収穫となった。

(近 藤 明 子)

### トランプでじっくり遊べたフリーデイ

第3回目のフリーデイが始まった。この日もS男は 自分からやりたいことを見つけられずに フラフラと動き回っていた。なにかS男が熱中できる活動はないか？私は考えていた…。

S男は1年生。小学生時代を金沢市内の特学分校で過ごし この4月から本校に仲間入りした。授業中は積極的に活動に取り組むが その意欲はあまり長続きしない。休み時間は大人にはよく話かけてくるが 発音が不明瞭で 言いたいことが伝わらないときは書き言葉で補っている。友だちと遊ぶことはほとんどなく 一人で絵や字を書いたり フラフラしてはたまに大人に話しかけたりして過ごしている。

そんなS男が本校の生活に慣れてきた頃 第1回目のフリーデイが行われた。「長い休み時間」と言われてもS男は何をしたらよいのかわからず 中Ⅰと中Ⅱの教室 ベランダ 学習室前をウロウロと約30秒～1分間隔で移動していた。たまに体育館でケンパをしている友達に加わったり バasketボールにシュートしたりして遊ぶが それもあまり長続

きしない。ウロウロしながら出会った大人に声をかけ かまってほしそうな素振りを見せる。しかし この日は応じてもらえず またどこかへウロウロ行ってしまうことを繰り返していた。

第2回目もほとんど同様。友達の動き 流れをみながら 自分も外へ出たり中へ入ったりしていたが そこで何をするというわけでもなく フラフラしているだけだった。

そうして迎えた第3回目。今回は大人の姿勢として『子どもの要求に応じて 少し遊びを広げていこう』ということだったので 私は 今日はS男にアプローチしてみようと心に決めていた。

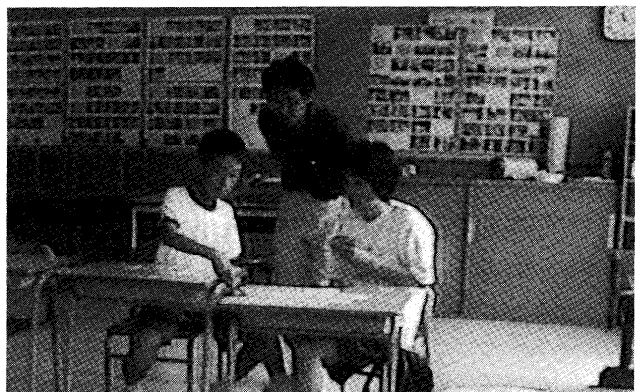
始まって15分くらいたった頃 ホールからエレクトーンの音が聞こえてきた。「楽しそうだな」とのぞきにいくと S男もついてきた。私がエレクトーンの音にあわせて踊るとS男も踊りだした。ニッコリ ととてもいい笑顔だ。しかし 2~3分もすると飽きて またフラリとどこかへ行ってしまうS男。あーあ 残念。私もその場を立ち去った。

10時頃 今度は体育館でウロウロしているS男を見つけた。私はS男の気をひこうとサッカーボールを出してきて蹴りはじめた。すると O子が近づいてきたので 二人でパスをすることになった。その様子を見ていたS男も案の定近づいてきて パスの輪は3人に広がった。しかし このサッカーも長くは続かなかった。

次は何をしようかな？ 体育用具室をのぞくと バドミントンがあった。「今度はバドミントンしようか？」私の提案にO子はすぐにのってきた。しかしS男は難しそうだと思ったのか 誘ってものってこなかった。S男はしばらくバドミントンを見学していたが そのうちまたフラリと体育館から出ていってしまった。 ああ また失敗だ。

10時半頃 私はO子とのバドミントンを終え 教室に戻ってきた。だれもない教室。S男はどうしているのかな？ 今日またS男はフラフラしているだけのフリーデイを過ごしてしまうのかもしれない……。そんなあきらめの気持ちが心によぎったその時 誰かが教室に戻ってきた。S男だ。ニッコリ話しかけてくるS男。かまってほしくて仕方がないのだ。

そうだ もう一度S男に働きかけてみよう！ 私は教室の中を見渡した。そういえばS男は家庭訪問のときテレビゲームに夢中になっていたな。それに近いゲーム感覚のものはないだろうか。教室の棚の引き出しを開けてみたら トランプが出てきた。よし これで挑戦してみよう！ 「S男くん トランプする？」「うん」大きくうなずいたS男。「何しようか？」「ババ抜き」S男の口からこの



七並べに熱中するS男

答えが帰ってきたときのうれしかったこと！ 早速ババ抜きの始まり始まり。ちゃんとルールもわかっていて スムーズに進んでいく。私もすっかり楽しんでババの行方を追っていた。

ババ抜きが終ってもS男はその場から動かなかった。いつもなら目的を果たすとスーッ

といなくなってしまうのに。「じゃあ次 七並べする?」「うん」・・・結局この時S男は 七並べ 神経衰弱を楽しんだほか トランプ占いでじっくりと見学し とうとうフリーデー終了の12時までトランプ遊びをして過ごすことができたのだ。

これまで何をやっても長続きしなかったS男が 1時間以上もの長い間トランプ遊びに熱中できたなんて! うれしくてたまらなかった。それにしても なぜこんなに長い間熱中することができたのだろうか。その理由として 次の三つを考えてみた。

まず一つめは トランプという素材そのものが良かったということ。ゲーム性に富んでいて 勝敗の行方にドキドキし はっきりと結果が出るトランプ。そのトランプの持つ特性が 彼の心をとらえた要因の一つなのではないか。

二つ目は 普段の授業とは違ったフリーデーという設定が良かったということ。実は第3回目の出来事がとてもうれしかった私は 早速次週からのグループ学習にトランプを取り入れたのだ。しかし 実際授業の中でトランプをやっても S男はあまり喜ばなかった。S男以外の生徒にルールを説明しなければならないので どうしても教え 教えられる関係になってしまう。それが S男にとって つまらなかったのかもしれない。フリーデーではたっぷり時間が保障されているので 大人もゆったりとした気持ちで子どもの反応を待ち 共に楽しむことができる。そんな雰囲気が良かったのではないか。

そして三つ目は 大人と二人っきり じっくりかかわることができたのが良かったということ。これにも後日談がある。実は 第4回のフリーデーでも 私はトランプをして遊んだのだが その時はN子とH男も一緒だった。するとS男は3人のトランプ遊びをちょっと見学しただけで 誘っても仲間に加わってこなかったのだ。もともとS男は 友だちに干渉されず一人で静かに過ごすのが好きだ。だから いくら好きなトランプとは言え他の子どもも一緒では 魅力を感じなかったのだろう。第3回目は あまり人けのない教室で 大人と二人 じっくり向かい合って遊んだことが S男の心を和ませたのではないか。先生を独り占めできたうれしさもあったのかもしれない。

今回 フリーデーという新しい試みを通して 私は ゆったりとした時間が保障されていることの大切さを一番感じた。たっぷり時間があるからこそ 子どもはその時間をなんとか過ごそうと自ら動き出す。大人も余裕を持って じっくり子どもの行動を待ち その子にあった方法で応じていくことができる。こうして新しい関係や遊びが生まれていくのだ。S男という一人の子どもの心の内を改めて考える良い機会にもなった。これからもぜひフリーデーを続けていけたらいいと思う。

(堀 井 和 子)

#### お別れ会式の歌を作詞したY男

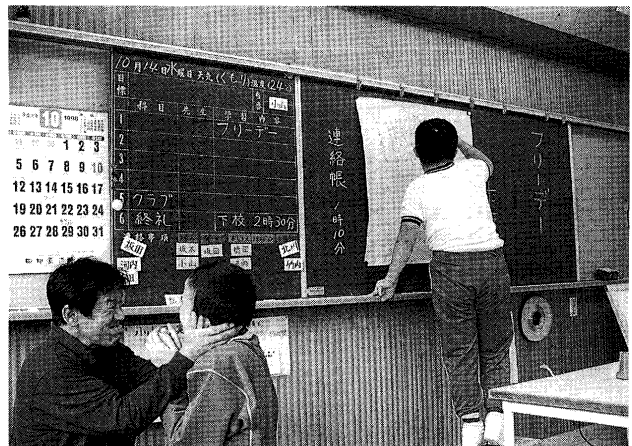
第4回のフリーデーは『教師の姿勢として 子どもに誘われたら意識的に遊びの輪を作ってみて まわりの子どもがどうするかを見る』という設定で行なわれた。始まってすぐにY男が私にすもうをしようと誘ってきた。Y男は2年生 私は2年生の担任である。Y男はフリーデーの時には初めから〇〇をしようと決めていることが多い。この日も学級朝礼

で「S先生とおすもうする」と言っていたし 以前のフリーデーでも初めから外で遊ぶつもりをしていて「フリーデー開始！遊んでいいよ」の声に 意気込んで外へまっしぐらに出て行ったこともあった。

どうして今日はすもうなのか 私にも分からなかったが とにかくホールに向かい ビニール紐で土俵を作り とくみあいを始めた。Y男がグイッと力を入れて押してくる。私もしっかり受け止め 押し返す。とくみあいの楽しさが味わえるように 簡単には勝負をつけられない。だが 怪我をされては困るので いつも負け役はこちらだ。周りではM男とR男 H男が観戦していたが 交代してすもうを取るとか行司役になるとか誰もしない。ちょっと残念だった。Y男の方は勝ち続けなのでますます調子をあげ シコをふんだり塩をまいたり 手刀きって賞金を受け取る動作つきで 悦に入っている。

7, 8 番も取っただろうか。二人とも息が上がってすもうはおしまい。Y男は棚にあったゴキブリゲームを出してきて R男も誘って3人で始めた。ゴキブリの絵が描いてあるコマをエアホッケー式に相手陣地の網に入れるものだ。どっかりと腰を下ろし いい休憩になった。次にY男が出してきたものは 組み合わせ式のブロックだ。大きな円柱型の容器の中からお目当ての形のブロックを出しては 組み合わせていく。「ほら見て 恐竜」「これは おうち」というふうに一つ一つを解説つきで出来上がったものを並べていく。私も形にならないものを作っては並べていった。いつの間にか私たちの周りには 展覧会のように作品がずらりと並んでいた。

容器の中身がなくなったところで Y男は紙芝居を棚から引っぱり出してきた。一冊だけ選んでもって来るのではなく 持てるだけを重ねて持ち何回か往復し 50冊ほどある紙芝居を一冊残らず持ち出した。「これどうするんや」と聞くと「こうするんや」と言って私の頭や体に紙芝居を乗せてきた。『先生やっつけごっこ』が再開したと思った。私はやっつけられたふりをして横になり されるがままにしていた。しまいには土俵代わりにしていたビニール紐まで巻き付けられ



お別れ会式の歌を作詞 よこでは百面相

れ 上に乗られて 何だかガリバーの気分になった。それを見たN子さんが心配そうにしていた。

しばらくして Y男は中Ⅱの教室に入り 模造紙にマジックで何かを書き始めた。所々文字が間違ったり抜けたりしているので きちんとした文章になっていない。「何書いてるの」と尋ねると「S先生の歌」と言う。何故そんなものを書き始めたのか？ホールの棚に歌詞を書いてある模造紙が何枚かあるが それに刺激されたのだろうか。全部書き終わって「お別れ会式の歌」と言う。そして「〇日にS先生が怪我をして入院して 〇日にまた元気になって学校来るよ」と予言めいたことを言う。私にすれば物騒な話だが 本人は大まじめだ。

書きあがった歌詞の模造紙を黒板に貼って 今度はI先生にギターで伴奏し歌ってくれと頼みに行った。もちろんI先生と私はそれに応じて 適当にメロディをつけてギターを弾き歌った。Y男自身も両手を頭の上で組んで 自分でも歌い満足そうにしていた。

今回のフリーデイでY男は先生を紐でぐるぐる巻きにした後 場所を変えて作詞をしている。一見突拍子もなく 全く違うことを始めたように見える。しかし 終了後の話し合いで 彼の心の中には一貫した流れがあることが指摘された。それは先生がやっつけられた後入院したので お別れ会をすることにした。その中で歌うための歌の作詞をしたということだ。彼は独自の表現でそれを『お別れ会式の歌』と言っている。

このことから Y男には 大人との遊びの中で 発展変化させたり 新しく作り出したり 仲間を増やして楽しんだりといった力が備わっていることが分かる。このように 大人と なら質の高いことができる。しかし 子ども同士であると難しいことが多い。フリーデイが目指すものとして 子ども同士の関わりの中でも 生活を作り出し 楽しむ力をつけていくことを挙げたい。今後 それに向けての教師側の課題を考えながら 実践を重ねていきたい。

(北 川 伸 二)

### 一人っきりを満喫するU男

朝の教室「U男君 お早う」彼は小さな声で「おはよう」と答え てきばきと連絡帳を提出し 文具を机に入れ そして更衣室へ。しばらくして更衣室を覗くともう居ない。彼の行動は素早く 場所の移動時はほとんど駆け足状態である。だからというわけでもないが 普段でも時々彼の行き先を見失ってしまうことがある。彼の行動にはもちろん目的があり その目的の場所やものに気持ちが先行している。この日も着替えた後 お気に入りのカセットレコーダー遊びのため それが置いてある図工室にもう入り込んでいた。

U男は本校小学部から連絡進学してきた現在中学部1年生の男子である。学校での彼の性格や行動の特徴として友達からのかわりを好まず また時間や場所そして活動場面において周囲からの拘束を嫌う。ゆえに時間割に沿った学習に参加できるかどうかは彼自身の忍耐力の強弱に左右されることになる。

彼の遊びや興味を示すものとしては 先に触れたカセットレコーダー遊びや写真 本を見ること ブランコ遊びなどがある。カセットレコーダー遊びでは好みの童謡や歌謡曲のテープを聞くというより ボタンを操作してそれぞれの曲の気に入ったフレーズを何度も繰り返して聞いている。また中学部ホール 和室などそこかしこにストックされている行事などの写真アルバムを引っ張りだしては見ていることも多い。行事が近づく と精神的に不安定に陥るようで 行事当日も含めてそれまでの期間は落ち着きがなくなる。だから写真を見て楽しんでいるというより 以前の学校行事を写真を通して確認し かえってその行事に対するマイナスイメージを高めているように感じられる。

フリーデイの実践での彼の行動観察からは 普段の行動や活動とあまり大差がなく 残念ながら顕著な変化を認めることができなかった。時間が長い分だけいつもよりも満喫したともいえるかもしれないが 自分の興味のある場所やものに関心を示して移動するという基本的な行動パターンはそのままであった。

消極的評価ではあるが 彼自身がこの時間を過ごし 自分の気持ちや興味のおもむくままに自由に行動できたことは 彼自身の精神の安定につながった部分もあったのではないかと思う。またこの学習の直接の成果とはいえないが 彼の日常的な行動の変化について

幾つか認められることもあった。中学部という新しい環境の変化に慣れるためのきっかけとして この学習形態が役立っているのではないかとも思う。フリーデ이의試みは彼の行動を再確認し より詳しく知る機会になった。

この学習形態では1対1で教師が一人の子どもとじっくりと時間を掛けて付き合うこともでき 子どもと大人の間で互いの行動を受け入れる余裕が生まれることが期待できる。子どもの立場でいえば 時間や教師に縛られずに過ごすことができ 教師の立場でいえば時間がある程度保障され 子どもの変化を待つことが可能になる。また指導を学習の中心としないことで強制する されるという場面がある程度回避され 子どもの自己表現 自己実現の場面も期待される。

今後の方向としては この学習を彼自身が社会の中で いきいきと生活する手がかりを探るための手段として活用していきたいと考えている。

(橋 本 直 紀)

### (3) 楽しかった第5回フリーデイ

子どもたちは 好きなことができるフリーデいを喜んで待つようになった。

そして 5回目のフリーデイは 殆どの教師が「楽しかった また明日にでもしたい」と言い 子どもたちの中からも「楽しかった」の声が上がり 中学部全体がとても充実した空気に包まれた。

これは『見守る』→『求めに応じる』→『共に楽しむ』に 切り替えていったことが影響していると思う。

この5回のフリーデいの流れで 子どもも教師もフリーデいをリラックスして迎えることができた気がする。

40ページの子どもの様子に加えて 次の3つの活動を紹介したい。

#### 焼き芋

私は今まで研究の係として ビデオを持ち第三者的な立場で参加していた。しかし 何かしらフリーデいを楽しんでいないジレンマがあった。それで“5回フリーデイはまず教師が楽しもう”と決まった時点から「よし！5回は思いっきり楽しもう」と決め 研究の仕事を忘れて何をしたいかを考えた。すると頭の中にまず浮かんだのは青空（当日は分からないが）の下 なにかしたいなぁということであった。「そうだ！ギターで思いっきり歌を歌おう」と考えた。しかし3時間近く歌っているわけにはいかない。「何か作って食べられるといいなぁ」と考えた。周りを見渡すと少し前に子どもたちが掘ってきたサツマイモがあった。「お！これだ これで焼き芋をしよう！」これなら準備も簡単だし 食べられるし 私の好きな火も焚けるし 歌も歌える。「一挙三得だ」と自分のアイデアに酔いしれた。それに焼き芋パーティーはつい先日 中学部で行われたばかりの行事で 子どもたちにとっても見通しの持てるものだった。

前日までに薪を準備しておき 当日はフリーデイが始まってからサツマイモを洗い 濡れた新聞紙を巻き その上からアルミホイルを巻いた。しかし この段階では子どもたちは誰も近寄ってこない。運動場へ出て火をおこす段になると何人かが集まってきた。私は

内心しめしめと思いながらも表情には出さず無視して作業を行った。すると火の好きなS男が薪を入れた。そして火が大きくなって サツマイモを焼くという段になるとまた子どもたちが増えた。それでも私は無視して作業を行っていた。

次に火の周りに座りたくなりブロックを使ってベンチを作り 座った。すると R男がそれに座ろうとしたので 初めて「座りたければあそこにブロックと板があるよ 自分で持ってきて座ったら」と話しかける。すると R男はその場所まで行ったり来たりしている。多分 持つ自信がなかったのだろう。そこでR男はJ男を誘ってブロックを運ぼうとする。実際に重いのでR男は必死な形相であった。ここで私は手を貸そうかなとも考えたが「いや まで ここで手を出すと また他人に甘えてしまうR男の悪い癖が出る」と考え黙殺した。周りの何人かも 先生は何もしてくれないと思ったのか 自分で作り始める。

何とかベンチが出来上がり目的の歌を歌い始めると また何人か子どもが集まってきた。このギターで歌うというのは 今まで休み時間におこなっていて 出来上がっているパターンなのでスムーズに始まった。



“もっと 食べたいなぁ”

そしていざサツマイモが出来上がりそうになり いい匂いが漂い始めると 食欲旺盛なK子が案の定この活動に加わった。私は「ちゃっかりとしている子」と思いながらも 本人の自主的活動として受け入れた。食べ始めてだいたいサツマイモを食い尽くしたかなと思うころ な、なんと蜘蛛の子を散らすように子どもたちはサーッといなくなってしまったのである。子どもたちもさるもの。食べものがなくなると 次に来るのが後片づけだとすぐに判断したのだろう。このような思考は「本能みたいなレベルで考えつくんだろうなぁ」と感心した。でもこれも自主的な活動だからと 納得させながら火の始末・ベンチの後片づけなどを一人で行った。それでも今日のフリーデイは満足した気持ちで いっぱいになった。活動を終えて考えたことは それぞれが自分の思惑でこの活動に参加したということ。外が好き 歌が好き 薪をくべるのが好き 火を見ているのが好き もちろん食べるのが好き。それぞれに意欲があって集まってきたのだろう。だから R男のようにつらい作業があってもクリアできたのだろうと考える。この力が学校生活や 家庭生活での“生きる力”につながっていくのだろうと自分勝手に考えた。

しかし 今後の課題は自主的活動の中に“片づける”という作業をどうやっていれるかだ。

(今 井 康 弘)

### カレンダー作り

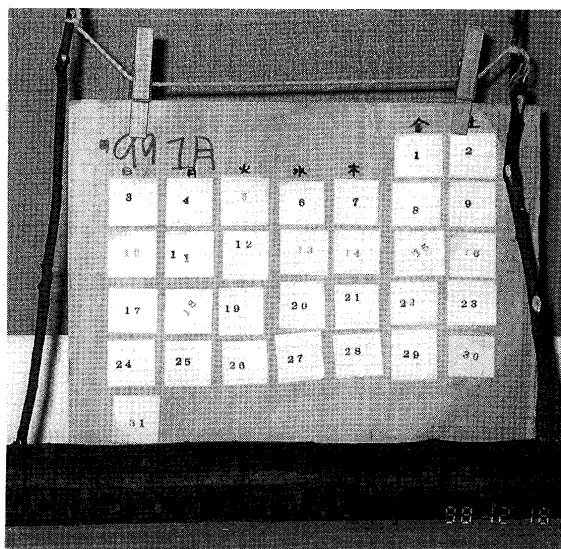
教師も自分の好きなことをしよう と設定された第5回目のフリーデイ。手作りカレンダーに取り組むことにした。まず 色とりどりの和紙を台紙に使う。数字のはんこをシール一枚一枚に押し 一枚を一日として台紙に貼っていく。できあがったら Y先生がやはりフリー

デイに作る予定の 木の枝を利用したスタンドにとりつける。きっと素朴な感じで素敵なカレンダーになるはずだと 子どもたちよりも私自身がフリーデイを楽しみにしていた。

教室の大きな机の上にカレンダーの台紙とはんこ シール スタンプなどを用意し 早速作り始める。私がカレンダー作りをしているとN子が「先生 何してるの?」とやってきた。N子は友だちともよく遊ぶが教師にかかわりを求めてくることも多い。彼女は気が優しく 教師に認めてもらいたいという気持ちも強いので 何か手伝ってというとよく手伝ってくれる子である。「カレンダー作ってるけど 一緒にする?」と聞くと「うん。」とやってきた。シールに一つずつはんこを押していく。「次どうすんの?」と聞いてくるN子。着々と日にちシールをつくっていく。N子は作業が簡単なこと 次々とできていくことが目に見えてわかること そして私と向き合って一対一で関わるのが楽しいようだった。二人でおしゃべりしながらどんどん作っていく。

そこにO子も入ってきた。彼女はフリーデイになるとちょこちょこいろんな事に取り組むものの ひとつずつが長続きせず 友だちと一緒に過ごすことも少なかった。決められた課題があると積極的に取り組むのだが いざ 何をしてもいいよといわれると何をしたいのかわからないのだ。特に最初の頃はフリーデイを長いと感じて 終わるとホッとしている様子も見られた。そんな彼女だったが やはり はんこを押すことが気に入ったのかじっくりと取り組みはじめた。私はO子が何か尋ねてくると「N子 教えてあげてよ。」といってN子に促し 彼女たちがかかわりを持ってくれば良いなと思っていた。

N子もO子もおしゃべりが好きである。「Oちゃんの誕生日はいつだったかな?」「すごーい。こんなにたくさんできた。」「あの人の誕生日はいつかな?」「次は○日だね。」おしゃべりしながらカレンダーの日にちを作っていた。こうやって 女の子同士 ウキウキとおしゃべりしているという場面が彼女たちにとっては嬉しいのだ。時間の終わりになって「フリーデイ楽しい。」と笑顔で話すO子。彼女は「またやりたい。」といって給食が終わってからの休み時間も続きをするほどだった。教師自身の楽しみが子どもたちにも伝わった第5回目のフリーデイだった。



完成！手作りカレンダー

(竹 内 君 江)

### コスモスの花びら染め

数日前に雑誌で見つけたコスモスの花びら染め。そのきれいなピンクの色に“よし！今度のフリーデイはコスモス染めに挑戦してみよう”と決めていた私。始まるとすぐにかごを手にも運動場へ出た。「先生どこ行くの?」「コスモスの花摘みに行くの」こんな会話を他の先生や子どもたちと交わしながら……。小学部の花壇 運動場のフェンス沿い等々コス



モスは今満開。すぐに手にしたかごは赤やピンクや白の花でいっぱいになった。うれしくなってきた。“ちゃんとできるかな？どんな色に染まるかな？”ちょっと心配もあった。

教室にもどるとH先生から「協力するよ」との申し出があり ほっと一安心。二人でホールに机を持ち出していっしょに花びらをとることにした。ここでしていたら子どもたちの目について寄ってきてくれるかもしれないと思っていたら 案の定何でもやりたがりのT男がやってきていっしょに花びらをむしりはじめた。1年生のT男は職家の授業で玉ねぎ染めやマリーゴールド染めの経験があった。でも彼はすぐにやめてどこかへ行ってしまった。しばらくすると2年生のT子が来た。彼女は次々と遊びを考えだしいつも生き生きと活動している。教師のしていることにも興味があってよく「先生何しとるの？」と聞いてくる子である。「何しとるの？」とT子。「コスモスの花びらとってるの」と私。「これどうするの？」「コスモス染めするの」「ふーん 私とってきてあげる」たったそれだけの会話で彼女はかごを手にひとりで外に出ていった。そしてしばらくするとそのかごいっぱいにコスモスの花を摘んできて「はい！」と持ってきてくれた。うれしかった。T子も私の役に立ててうれしそうだった。その分の花びらも加えて さっそくコスモス染めにとりかかることにした。

私もH先生も初めての経験である。でも中学部には染色に凝っているM先生がいるから心強い。本に書いてある染め方を見ながら わからないことはM先生に聞いては材料を揃え ひとつひとつ作業を進めていった。『花びらを不織布の袋に詰め 分量の酢を入れてから水を入れ十分揉みだして色を出す』なかなか色が出てこなくて本当に出てくるのかと心配になった。10分経ったところようやくきれいな赤い色の汁が出てきた。「H先生やっと色出てきたよ」ふたりで大喜び。さっそく染める布を入れた。うれしくて大騒ぎしているH先生と私。さっき花びらを摘んでくれたT子も見にきた。花びらを少しだけ取ってくれたT男も染め汁をかきまぜてくれた。きれいな紫色に染まってきた。“やったー！”またまたうれしくなった。本に載っていたようなきれいなピンク色じゃなかったけれど やさしい紫色に染まった。洗って脱水してから廊下に干した。「きれいだねー」とたくさんの人に言われ やってみてよかったと改めて思った。

楽しかった。今度は何の花に挑戦しようかなと次回のフリーデイが楽しみになった。コスモス染めは次の職家の授業で子どもたちといっしょに花を摘みにいって取り組んでみることにした。そして子どもたちといっしょに私もこれからのフリーデイの時間にもっといろんなことに挑戦していこうと思った。



“どんな色がでるかなあ～”

(近藤明子)

### 3.まとめ

#### (1) フリーデイの経過から

予想どおり子どもたちはとまどいながらも動きは始めている。1回目では不安そうに「何?」「次は?」と教師に指示を求めてきたが 回数を重ねるごとに教師に指示を求める子どもは減少している。子どものフリーデイの過ごし方にも少しずつ変化がみられる(めんこのH子)。教師の対応も1回目の記録をとるから もっと気楽に子どもと付き合うに変わり そのことにより 子どもとの共感的な相互関係がうまれている(オニ オニ オニ・トランプ遊び なりきりバンドなど)。長い時間の確保がT男の一輪車のりを可能にしたし Y男は作詞した紙を黒板にはり I先生に「うたってよ」と求めてきた。N子はH先生に「こわいはなしをしてあげるね」と素話をする。これまでに考えられなかった数々の文化が生まれている。フリーデイならではの。

かつて私たちは『散歩』の研究の中で「つながりを育てる大人の姿勢」を明らかにしてきたが この大人の姿勢が子どもとのかかわり合いを育む土台につながっている。フリーデイの当初 教師は子どもと全くかかわらず見ていただけの立場をとった。子どもの行動観察に徹し 子どもたちが 何を 誰と どこで 始めるか。人や物 場所 環境とのかかわり合いを見つめることにした。そうすることが子どもを理解し やがては どのような環境をつくればよいか 子どもといかにかわればよいかが見えてくると考えたからである。以後 記録に徹することはとりやめにしたもの 第1回フリーデイの観察する姿勢を堅持し 子どもからの求めに応じる姿勢に切り換えた。この観察・記録(資料1)後全員があまり体験したことのない疲労感を味わったが 結果的にはこの「子どもをみる目」がフリーデイの教師の姿勢の根底に流れ 一人一人の子どもとのかかわり方を生み出していくことにつながったといえる。

以後 求めに応じ やがては共に楽しむことにより フリーデイ5回目では子ども 教師から「たのしかった!」(コスモスの花びら染め・やきいも・カレンダーなど)という声が上がったのである。学校は楽しければいいのだろうかという新たな不安も出てきたが「先生が楽しい学校なら 子どもも楽しい それでいいんじゃない」という親からの連絡帳のメッセージに励まされている。

フリーデイ4回目には助言者に参観していただき 多くの示唆に富む視点を頂いた(39ページ参照)。「先生自らわき上がるものを大切にする」というアドバイスは私たちを奮起させ 5回目の「楽しい」を引き出すきっかけになっている。

#### (2) 課題

まだ実践途中にあり 私たち自身が実践を分析しきれていない。そんな状況ではあるがすでにいくつかの課題が浮き彫りになってきている。

ア. 子ども一人一人の目標 課題を明確にしていくことが必要である。それも担任レベルではなく 親の願いを受けとめつつみんなで確かめていくことが大事である。フリーデイでは いつ 誰とかかわるかは全く決まっていない。全教師が指導したい内容につい

て個別目標を念頭においてかかわる必要がある。特に「〇〇さんにとってのフリーデイ」にはどんな意味があるか 焦点をしぼって考えていくことが大切と思われる。

イ. 事例に基づき 教師と子どもとのかかわりがそれでよかったのかを ていねいに その都度検証していく作業が必要である。そして「生活の主体者」となる子どもを育てる道筋を 実践ごとに明らかにしていくことである。「大人の姿勢」もその中でさらに充実させていきたい。この作業の中で『生きる力』につながる子どもの動きをキャッチし得る力量が 私たちに備わることを期待したい。

ウ. 助言者の「レジャーに陥ってはいないか」という指摘から どのような素材・資源を準備すればよいのかを 取り敢えず現在の教室環境が子どもの期待に応えているかから検討したい。また子どもたちに「自由に」周りの物を使ってよいということをどう伝えていくか さらに「『教師』根性に引きづられない」という含蓄のあるアドバイスを子どもの活動をいかに組織するかということと合わせて考えていきたい。

エ. 一人でいたがる子どもへの対応に悩んでいる。何も始めない子どもに悩んでいる。誰とも つながろうとしない子どもに悩んでいる。この事実を私たちはどう考えて行けばよいのか これからも続けて悩んでいきたい。なぜだろう。個性として片づけてよいのだろうか。教育環境の問題なのだろうか。きっと教育の原点につながる何かを導き出すに違いないことを信じて考えていきたい。

オ. 評価の問題が残されている。指導目標 指導のねらいの達成度などと照らし合わせながら評価することが必要である。

カ. 教育課程の再編成に向けて フリーデイから何を学ぶか考えたい。子どもたちは教科で学んだことを遊びの内容に取り入れている（コスモスの花びら染め）。逆に フリーデイで生まれた遊びを教科に反映させた場合（トランプ）もある。指導方法においても子どもたちの気持ちの動きなどにも以前より注目がいくようになってきたと話す教師もいる。これらを踏まえて『領域・教科を合わせた指導』『領域別・教科別の指導』『指導形態』はじめ 時間割や日課表の見直し さらに行事などについても再度検討を加えていく課題がある。

課題ばかりが多く 前途多難ではあるが「生活の主体者として生きる子ども像」を描きながら 一人一人の子どもから出発することを合言葉に実践を進めていきたい。子どもたち一人一人が“自分で考え（どうしたいかを自分で決め）”“遊び 作り 働き”「みんなといっしょに生活することって楽しいね」と言えるようになってほしい。「生活させられる子どもではなく 生活する子ども」を そんなたくましい心とからだを育てたいものである。そのための中学部での教育内容は何かを小学部 高等部との12年間の一貫性を念頭におき考えていきたい。

（梶 蔵 千恵子）

## 資料

## 第一回フリーデイ行動記録表

名	行 動 内 容
S 男	<p>9:35 校舎からベランダに出たり入ったりを20回繰り返す。その間10:04にベランダ のひまわりの花を触る。10:21 W先生にちょっかいを出す。</p> <p>10:02 H先生の記入用紙を見て M男に追いて廊下 中I ベランダをうろうろ。</p> <p>10:15 再びH先生の用紙を覗き黒板を見て窓際の掲示物を見る。</p> <p>10:20 体育館でT子 N子 M男の ケンケンパーに加わり少し遊ぶ。</p> <p>10:25 1階廊下に現れ玄関前へ そしてすぐに中へ戻っていく。</p> <p>10:35 H先生に話しかけに来る。</p> <p>10:45 体育館でバスケットのシュートをしてすぐにマットへ。</p> <p>11:05 中Iへ来て 大きな写真を見る。→ 08 教室から出ていく → 15 再び中Iへ</p>
T 男	<p>9:30 体育館でS先生の手を借り一輪車乗り。</p> <p>9:45 休憩 5分後に体育館から一旦出る。</p> <p>9:55 戻ってきて 2回乗って 一輪車を片づけて出ていく。</p> <p>10:06 中Iを覗く。→N子のフープを取ろうとしたが 諦めてホールを出ていく。</p> <p>10:20 はたおりを中断して H先生の腕をつかんでにっこり (H先生がT男の踊りを真似たことがうれしい)</p> <p>10:45 体育館を覗くが すぐに出る。→ 53 ホールに現れる</p> <p>10:55 出ていく。中IのH先生の腕をつかみに来る。</p>
M 男	<p>9:32 ホールでN子・K子とウロウロしているが すぐに体育館へ。</p> <p>9:35 N子・T子とフープの取り合い。</p> <p>9:52 T子・N子に追いてホールに戻りソファに座る。</p> <p>9:55 体育館に戻って フープをもって戻ってくる。しかし K子に取り上げられ またT子を取り返してくれる。</p> <p>9:57 フープをもって廊下で転がして遊ぶ。</p> <p>10:01 H先生のところへフープをもって現れ すぐに廊下へ。再びH先生のところへ 来て「次何?」と聞き → 廊下 → 中Iでフープを転がす。</p> <p>10:10 体育館でフープを転がす。</p> <p>10:30 I先生のビデオ撮影に追いて廊下へ。N先生に「ルミは?」「中Iにおるわ「行 く」の会話。</p> <p>10:35 小3のU男を発見して「ゆう」と叫ぶとU男は逃げていく。</p> <p>10:37 「せんせーい」と言ってK先生を覗き込み→出ていく。</p> <p>10:38 中Iに戻ってH先生を覗き込み「ハッピータイムは?」「輪っかは?」ときくと 取りに行きフープを持って戻る。</p>

	<p>10:47 中ⅠのH先生の顔を覗き込むが ホールでギター音が聞こえたのですぐホールへ。</p> <p>10:53 ホールで“バナナボート”の曲がかかっていたので コンガを叩きに来る。しばらく T子・K子・N子と本を真ん中にして椅子に座っている。</p> <p>11:10 体育館のS先生のところへ“アンパンマン”の本を持ってくる。そして遊ぶ。→ なわばしごをS先生にかける。</p> <p>11:20 中Ⅱのソファで絵本を見る。→G男を引っ張ってホールへ。</p> <p>11:25 再びG男と中Ⅱへ。</p>
G男	<p>9:30 体育館でK子に一輪車に乗せられている。</p> <p>9:45 K子一人ではG男を一輪車に乗せられないので S先生に頼みに来る。</p> <p>10:00 諦めて体育館から二人出ていく。</p> <p>10:10 K子と共に学習室前で太鼓を叩く→窓からバチを捨てる→拾ってくるとK子に鉄柵(ベランダ)を叩くよう指示される→何度かK子がバチを捨て 拾ってこさせられるが 途中から行かなくなる→するとK子も一緒に取りに行く</p> <p>10:35 K子と小1でG男横になり 楽しそうに「イヤ、イヤ」また赤ん坊に見立てられて手を取ったり 頬を寄せたり 太鼓のバチを口に持っていったりしている。</p> <p>10:50 K子がツンツンするとG男は小1より出ていく。そして 小3へ(U男との接点なし) 小ホールをブラブラ</p> <p>10:54 K子から離れて2階へ戻る。</p> <p>11:20 体育館へ行き ウロウロ。出たり入ったり。一度だけシュートする。K子に連れられてホールに来る。→中Ⅱへ行き ソファに座られる。→今度はM男に連れられ出ていく。→25 M男に連れられ中Ⅱをウロウロ。</p>
K子	<p>9:30 (ずっとG男と一緒に)</p> <p>10:54 一人で中Ⅰ廊下にやってくる。手には“ドラえもん”の本を持って 皆の様子を伺いに来る。→ホールへ行ってエレクトーンを触る。椅子を並べて座る。</p> <p>11:11 H子にマンガを取り上げられる。→中Ⅱへ逃げ込む。手にはアンパンマンを持って。→一度出て行くがまた戻り絵本を読む。</p> <p>11:15 R男とJ男がくっついているのを見て「ややこしい」と二人を引き離す。→中Ⅱの黒板カードを動かして それを直しに来る。J男とやりとり。</p> <p>11:20 中Ⅱソファ→またG男を連れてソファへ→中Ⅱを出ていく。</p>
U男	<p>9:30 体育館へ行ってボールをバシバシ叩く。</p> <p>9:37 小3組へ入って カセットで民謡(ソーラン節)や 童謡(カモメの水兵さん)を1フレーズ繰り返してきく。</p> <p>10:35 ビデオ撮りの先生に追ってきたM男に発見され「ゆう」と呼ばれて すぐに</p>

	<p>小3を飛び出し2階へ行き中ホールにちょっと顔を出しすぐに戻ってくる。</p> <p>11:10 小3組の子供たちが帰ってきたので遊戯室のブランコへ行く。→一旦廊下へ出て 照明をつけ再びブランコで遊ぶ。</p> <p>11:24 保健室へ入って椅子に腰掛ける（小学部児童が遊戯室に入ってきたためか？）</p> <p>11:30 N先生の「行くよ！」でホールに戻る。</p>
R 男	<p>9:30 S先生に追いて体育館へ。</p> <p>9:58 J男とホールに現れて「デューオ」と言いウロウロ。</p> <p>10:06 コンガを叩く → J男と共に中Ⅱへ → ソファでベタベタ。</p> <p>10:10 J男と離れて中Ⅱを出る。</p> <p>10:30 中Ⅱに戻ってきてソファでくつろぐ → H先生にちょっかいを出し → 再びJ男とベタベタ → 途中叩いたりなでたり → 床に正座。</p> <p>10:45 J男の後を追って体育館へ → S先生とJ男とバスケットのシュートをする。</p> <p>11:00 中Ⅰで卒業文集を見ていたJ男を見つけて入ってくる。しかしJ男が相手にしてくれないので廊下へ → ホールでウロウロ → I先生のギターにくっつく → 出ていく。</p> <p>11:08 中ⅡのS先生に追いて体育館へ → 「ホッ、ホッ」の遊びを誘いに来るが いつもの調子でないと悟り 体育館から出る → 2～3度出入り。</p> <p>11:12 中Ⅱへ戻りソファのJ男とべったり。</p> <p>11:15 中ⅡのベランダのY先生のところへ。</p> <p>11:20 ホールでJ男と「ややこしい」関係 → ミシン踏み → 中Ⅱ</p> <p>11:25 「Happy Children」(新沢としひこ／作詞 中川ひろたか／作曲)の曲が流れると二人とも素早く椅子を持ってホールへ。</p>
J 男	<p>9:30 体育館でボールを壁にぶつけて遊ぶ。</p> <p>9:50 中Ⅰフラリ → 中Ⅱフラリ</p> <p>9:51 ベランダ → 自分の席に座り耳を押えて独り言をベラベラ（ボートレース？）</p> <p>9:58 立ち上ってホールへ → CDを聞いているO子のそばへ行き 覗き込む。(10:00まで) → ソファでガイドブックを見る。</p> <p>10:06 中ⅡでR男とベタベタ → 水槽のあたりをウロウロ → 手洗い場の蛇口で遊ぶ → 中Ⅲへ</p> <p>10:10 R男と離れる。</p> <p>10:20 ホールでR男とくっついていてH子に「ややこしいぞー」と怒鳴られる。</p> <p>10:27 ホールに戻って外を眺めて → 中Ⅱへ行きR男を見つけてベタベタ。</p> <p>10:45 体育館へ。バスケットのシュートをする。10:55 でやめる → ホールへ行き → 出ていく。ベランダへ出て高等部の作業を見ている。</p> <p>11:00 中Ⅰへ行って椅子に座って机の上にあった卒業文集を見る。</p> <p>11:07 中Ⅱのソファへ。</p>

	<p>11:15 R男と離れて自分の椅子へ→またくっついていいるところへK子に「ややこしい」と注意され中Ⅱの黒板の名前カードで遊ばれる。</p> <p>11:20 中Ⅱで一人でボール遊び→ホールへ行ってミニバスケットにシュートする。</p> <p>11:22 中Ⅱへ戻る。</p> <p>11:25 「Happy Children」の曲が流れるとR男と真っ先にホールへ椅子を持って行く。</p>
T 子	<p>9:32 Puffy の曲を聴いて コンガを叩く→サッカーボールを持って N子・M男らと体育館。</p> <p>9:40 N子と共にフープを跳んだり それを持ってステージの上で踊る。</p> <p>9:50 ホールに戻り フープを持って踊る。10:20までホールにいる。</p> <p>9:55 M男がK子にフープ2本を取り上げられたのを見て 取り返してやる。</p> <p>10:20 体育館へ行き N子がS先生とフープ遊びをしているのを見て フープを6つ並べてN子 S男 M男らと順に跳んで遊ぶ。</p> <p>10:35 フープ遊びの後 トンネルを持ち出すがすぐに片付ける。</p> <p>10:42 中Ⅱ教室へ ボールを手にする。</p> <p>10:53 ホールへ“バナナボート”の曲に合わせてコンガを叩く。→エレクトーンを触り 机の周りに椅子を並べて座る。</p> <p>10:55 H先生のところへ行き「髪の毛を結んで」と言う。</p> <p>11:05 ホールを出ていく→?</p>
N 子	<p>9:32 ホールでウロウロ。</p> <p>9:35 体育館へ。T子さんとフープを跳んだり ステージ上で踊る。→M男とフープの取り合いになるが S先生が仲介に入り渡す。</p> <p>9:50 T子とフープを持ってホールに→体育館→またホールに戻り フープをカタカタ床にぶつけるだけ。座っている。</p> <p>10:07 中Ⅱへ行くが→ホールへすぐに戻り</p> <p>10:10 中Ⅱへフープを持っていき→H先生に話しかけまた出ていく。</p> <p>10:20 体育館でS先生とフープ遊び。→T子たちが来てケンケンパー遊びをする。→?</p> <p>10:31 廊下でM男とK先生がフープを転がしているのを見て 中Ⅰへ行き H先生とフープ転がし。</p> <p>10:53 ホールで“ドラえもん”を読んでいる。</p> <p>11:25 自分の机より手紙を出して中Ⅱを出ていく。</p>
O 子	<p>9:32 フリーデ이의為にかから持ってきたCD (Puffy) の曲をホールでかけて聴く。</p> <p>10:01 小さいボールを持ちミニバスケットのゴールにシュートして遊ぶ。→?</p> <p>10:40 CDをやめ 片付けてから「Iセンサー」と言って ホールを出ていく。</p> <p>10:42 体育館へ行き J男・S男・R男・S先生らとバスケットのシュートをする。</p> <p>10:55 全員体育館からいなくなる。</p>

O 子	<p>11:00 ホールへ行き テープの曲に合わせてエレクトーンを触っているが ボールを持って出ていく。</p> <p>11:14 CD (岡本真夜) をかけるが すぐにやめる。</p> <p>11:17 逃げようとするK男の肩に手をかける。→ノートを持って教室へ→ 中Ⅲの教室で手紙を書き出す。</p> <p>11:25 ホールでH・Tの曲がかかると「エーもう」と言う。</p>
H 子	<p>9:32 フリーデイのために家から持ってきたレゴを教室の後ろに座り込んでする。</p> <p>9:38 「もし おなかいたくなったらどうしよう」と レゴをやめる。→ 教室内のK先生のそばをウロウロ→廊下へ→教卓に座って「おなか痛い」</p> <p>10:02 ホールへ行ってウロウロ。K先生のそばに来たり N子に抱きつく。</p> <p>10:05 教室でレゴ。後ろ向きで隠すようにしている。→ ホールへ引っ越し</p> <p>10:18 ホールでコンガを移動させて絵本の前に座り込んでレゴをする。→J男・R男に「ややこしいぞ」と怒鳴る。→ 寄ってちょっかいをかけて H男に「あっち行って」</p> <p>10:23 ソファのK先生の横に来るまで3段階を要す。</p> <p>10:30 体育館へ行き入り口のところでブロックを広げるが すぐにしまう。</p> <p>10:50 ホールにレゴを持って登場。</p> <p>10:53 「男大嫌い」「帰って」→ K 先生のそばに引っ越してくる。H 男に対して「まぬけ K先生に言いつけるよ 泣け 大嫌い」と言っている。</p> <p>11:11 K子のマンガを取り上げる。</p> <p>11:25 H・Tのテープがかかると「かけるなよ」と言う。</p>
H 男	<p>9:32 教室・ホールをウロウロ。H子のそばに座る。</p> <p>9:38 教卓に座っているH子の横にいる。</p> <p>10:02 ホールへH子に追いて行く。→教室へ。</p> <p>10:05 教室でレゴで遊ぶH子の横についてうろうろ見ている。</p> <p>10:20 I先生を追いかけて中Ⅱを素通り。</p> <p>10:23 ホールから外を眺めている→出ていく→I先生を呼んできてH子に「おしまいですよ」</p> <p>10:27 フラフラとしていて外を眺め 爪噛み 指なめ</p> <p>10:30 体育館でレゴをしているH子を見ている。</p> <p>10:42 中ⅠのH先生のところへ来て腕をつかむ。</p> <p>10:43 中Ⅲをウロウロしているが テラスへ出て D男に触ってまた出ていく。</p> <p>10:52 ホールにレゴを持ってきたH子に付いてくる。→H子にいろいろな悪口を言われる。</p> <p>11:10 体育館にビデオを撮りに来たI先生についてくる。</p> <p>11:12 ホールへ→ 22 教室へ</p>



D 男	9:32	ホールにボーっと立っていて→廊下へ→教室へ（もの探し？）→すぐに出ていき中教室のお茶へ→中Ⅲのガイドブック→部室との間を行ったり来たり
	9:52	中Ⅰに入ってきてH先生の顔を覗き込む。大きい写真もチラリと見る→廊下→中Ⅲ教室へ。ガイドブックをソファに座ってみる（～10:10）→中ⅡのH先生のところへ→廊下→中ⅠのH先生のところへ→廊下
	10:13	中ⅠのH先生に顔を近づけて腕をすりすり
	10:15	” の所に
	10:20	” の所に→ホールでH子とH男のやりとりをじーと見ている
	10:26	H先生の顔に腕をスリスリ→廊下→またスリスリ→ベランダで土いじり（～32）
	10:32	中Ⅱの先生にスリスリ→廊下へ→中ⅠH先生にスリスリ→中Ⅱのベランダへ
	10:33	～44まで土いじり
	10:45	ホールに戻り しばらく立っていて→テラスへ
	10:45	～50まで土いじり
	10:51	～11:26 Y先生が声掛けするまで土いじり
K 男	9:33	フリーデイが始まると同時に 運動場へ出る。ブランコ横に座り つば吐き鼻水ねじり
	9:42	ブランコ乗り
	9:45	ジャングルジム
	9:47	ブランコ横に座る
	9:58	ブランコ横の支柱に座る
	10:07	ブランコ横に座る。手の甲で自分の膝を叩く。
	10:13	つば吐き
	10:21	シャツを噛む→ブランコへ
	10:25	体育館へ→ステージの上でジャンプとターン
	10:26	靴下姿でホールから中Ⅲ教室へ入っていきズックを履いてくる。
	10:28	ピアノの前の椅子に座りC D を聴いて身体を揺らしている。
	10:41	ソファに引越し。I先生のギターと歌「バラが咲いた」「春の風」「楽しいね」を聞きながら身体を揺らす。→I先生がわざと「やめようかな?」と言うと 手を伸ばしてギターを触ろうとする。「翼を下さい」で席を立て「タッタッタ」と手を叩く。大きく体を動かす。I先生「やめようかな?」→大きく反応→「ビスケットのうた」が始まると一旦座るがホールを出る。→すぐに戻る
	10:53	I先生立って「バナナボート」のテープをかけると ソファに座る。ミシンのところに座っているK先生を見てニッコリ→?
	11:20	立ち上がる→体育館へ。そしてマットの上でうつぶせ寝→ホールに戻ってきてソファに座る→体育館

この後 11:30からホールに集まり1回目フリーデイのビデオを見た